

健全遊技のすすめ

～WHOの依存定義が2月厳密化した～

公立諏訪東京理科大 医療介護健康工学部門長 篠原菊紀

概要

- 2022年2月の国際疾病分類ICD-11に従えば、これまでの「依存症」疑いは「危ない遊び方」疑いとみるべき
 - ICD-11が2022年2月にギャンブル障害の必須要件を厳格化し、コントロール障害、ギャンブルの最優先、否定的な結果にもかかわらず継続拡大、の三要件を満たし、重大な障害や苦痛が生じていることが必須となった。
 - 「危ないギャンブル（危ない遊び方） or ベッティング」が、疾病や障害ではない「健康状態または医療サービスとの接触に影響を及ぼす要因」のひとつとして設定され、ギャンブル障害との区別が求められた。
 - ⇒これまでの「依存症」疑い率は「危ない遊び方」疑い率とみるべき

神経症傾向や「自分で止めることができない」という考えが、パチンコの危ない遊び方を生み増強する

- 社会安全研究財団パチンコ・パチスロ遊技障害研究会の調査で、2017年1-2月時点で、過去1年間の遊技障害うたがい率(ぱちんこの危ない遊び方をしている疑いのある人の率)は0.4%、約40万人と推定された。
- この数字は他のDSM系の国内調査や諸外国の調査とそれほど違わないもので、「日本はギャンブル依存症が突出して多い」「それはパチンコ・パチスロの普及ゆえ」というのは誤り。
- 神経症傾向(敵意、不安、抑うつ、自意識、衝動性、傷つきやすさ)がぱちんこの危ない遊び方の長期的で強力な促進要因。
- 「パチンコ・パチスロを自分で止めることができない」という認知の歪みがぱちんこの危ない遊び方の発生や進行に強く影響。
- (牧野、佐藤、西村、篠原、石田、坂元、河本、お茶の水WG)

死亡率と罹患率のための
国際疾病分類第11版

ICD-11

嗜癖行動による障害

6C50 ギャンブリング障害

- ・コントロール障害
- ・最優先
- ・否定的な結果にもかかわらず継続拡大のすべて
- 重大な苦痛または障害

限定的にとらえよう

互いに排他

健康行動にかかわる問題

QE21 ギャンブルの危険な遊び方

その他

併存障害等や経済問題への適切な対応が優先。
もともとの「生きづらさ」などに対して環境調整、合理的配慮など福祉的対応が必要。

ここをきちんととらえているグループへの助成

時代や状況に合わせ、できるだけリスクを幅広く想定し、予防策を打つのが業界の責務

「自由に遊んでいいときに遊ぼう」
 「失っても構わない範囲でパチンコ・パチスロをしよう」
 「他に優先すべきことがある時はそちらを優先しよう」
 「どこまでお金を使って良いか決めてから打とう」
 「家族や友人に対して嘘やごまかしなくパチンコ・パチスロをしよう」

神経症傾向(敵意、不安、抑うつ、自意識、衝動性、傷つきやすさ)や「パチンコ・パチスロを自分で止めることができない」に特に届けるべき

- **出玉性能、広告宣伝視聴とぱちんこの危ない遊び方の関連はない**
 - 日遊協 パチンコ・パチスロ遊技障害防止研究会
 - (篠原、坂元、河本、小口、お茶の水WG)
- **演出によるドーパミン増幅はぱちんこの危ない遊び方に関連しない**
 - 日遊協 (篠原、櫻井)
- **遊技頻度、時間、負け額などの遊技量は、ぱちんこの危ない遊び方に影響せず、健全遊技が重要**
 - 公立諏訪東京理科大医療介護健康工学部門とダイナムの共同研究
 - (西村、篠原、櫻井、奥原)
- **70代ぱちんこユーザーの認知機能は高く、健全遊技を励行しているほど高い**
 - 日遊協 (篠原、櫻井、河本)

おすすめスロージャン（健全遊技：健康的な遊び方）

- 否定型⇒肯定型
- 行動変容を促すなら、具体的で実現可能な行動の形を肯定形で表す。
- 「失っても構わない範囲でパチンコ・パチスロをしましょう」
- 「他に優先すべきことがある時はそちらを優先しましょう」
- 「どこまでお金を使って良いか決めてから打ちましょう」
- 「家族や友人に対して嘘やごまかしなくパチンコ・パチスロをしましょう」
- 詳しくは <https://note.com/s96hige/> とくに「パチンコ・パチスロでのギャンブルینگ障害、危ない遊び方、健全遊技、まとめ」
<https://note.com/s96hige/n/nacff31aa290f>